

那珂市議会教育厚生常任委員会記録

開催日時 平成30年8月6日(月) 午前10時

開催場所 那珂市議会全員協議会室

出席委員 委員長 筒井かよ子 副委員長 富山 豪
委員 寺門 厚 委員 古川 洋一
委員 中崎 政長 委員 遠藤 実

会議事件説明のため出席した者の職氏名(総括補佐以上と発言者)

学校教育課指導室指導主事 富山 敦子

学校教育課長補佐 会沢 実

建築課長 渡邊 勝巳

職務のため出席した者の職氏名

議長 君嶋 寿男 次長 清水 貴

次長補佐 横山 明子

会議に付した事件

(1) 調査事項「障がい児教育」について

…学校教育課指導室より説明あり

(2) 今後の調査研究の進め方について

…特別支援学校視察について確認

※委員会開会前に那珂市立幼稚園建設現場を視察

議事の経過(録音機器の不具合により概要のみ記載)

開会(午前10時07分)

(委員長挨拶)

(資料により説明「特別支援教育について」)

古川委員 支援員をふやすための補正予算を計上するという話を聞いた気がするが、資料の表にある各学校の支援員数は、今現在のものか。

富山指導主事 今年4月1日の数で説明しました。

学校教育課長補佐 当初予算計上時には昨年と同額としていたが、今年度当初に支援員の増員が必要となったため、補正に先行して支援員を配置した部分があり、その分を含めて補正予算を計上する予定です。

寺門委員 学校から支援員不足の声が上がっているが、特別支援の専門の人にしかできない部分と、そうでない部分があると思う。実際にはどれくらい支援員がいれば足りるのか。

富山指導主事 専門的な知識がなくても、子供たちの生活支援ができれば非常に助かる。例えば、授業中に教室を飛び出してしまう子などの対応をお願いしたい。

寺門委員 支援員はどのように集めているか。また、支援員を育てるような仕組みはつくっているか。

学校教育課長補佐 支援員の人材育成まではできていない。生活指導員は資格が必要ないので、公募により集めており、学校で状況説明を受けて現場に入らせていただく流れです。

遠藤委員 入学する学校を選択する際の保護者の判断材料はどのようなものか。また、保護者が判断できるよう、説明はきちんとしているか。もう一点、特別支援学校及び特別支援学級の生徒1人に対する先生の数を教えてほしい。

富山指導主事 特別支援学校は1クラス3名で、低学年では、生徒1人に先生が1人つく場合や、軽度のお子さんで生徒2人に先生が1人つく場合もある。特別支援学級は1クラス最大8名ですが、その年の学年の状況により、生徒3人から5人に先生が1人つくケースが多いようです。

遠藤委員 肢体不自由児の場合、学校選択の際に、バリアフリーなど、特別支援学校の物理的なサポート面について、保護者に説明はしているか。

富山指導主事 説明はしている。肢体不自由児の保護者の場合、学校の環境面について良く調べて理解しており、私が関わった方々は100%特別支援学校を選択しています。

遠藤委員 那珂市の生徒は以前、勝田特別支援学校に通っていたと思うが、現在でも勝田に在籍している生徒はいるか。また、資料にはないが、特別支援学校の高等部に那珂市から通学している生徒の数などは把握しているか。

富山指導主事 常陸太田特別支援学校ができた際に、通学区に那珂市が入ったため、那珂市の生徒はすべて勝田から常陸太田に転校します。高等部の在籍状況については、県に確認しないとわかりません。

遠藤委員 特別支援学校に行かない理由として、友達がいなくなってしまうということが挙げられていたが、特別支援学校に入学すると、高等部までずっとそこで過ごす人が多いので、地域との関わりがなくなってしまう。居住地の学校との交流を積極的に進めてほしいが、現状はどうなっているか。

富山指導主事 居住地校との交流を積極的に進めるよう県からも指導されている。生徒本人と保護者に確認し、交流の希望があれば教育委員会に通知があり、特別支援学校と居住地校で、交流の時期や内容を調整し、年二、三回実施している。今年度は10名の希望があり、調整を進めている段階です。

今年は初めての試みとして、聾学校幼稚部から毎週水曜日に菅谷幼稚園に来て交流を行っている児童がいる。生活に不自由のない聾学校の環境から、手厚い支援のない外の世界を味わい、あえて手助けをしないことで、最初は戸惑っている子供が徐々に成長していく様子が見られており、手話を覚えて交流する保護者や児童などもいて、周りにも良い効果が生まれてきています。

小学校では、毎年継続して居住地校との交流を行っているケースが多く、本人も学校側

もスムーズに交流が行えています。中学生は、残念ながら本人や保護者からの希望がほとんどない状況です。

遠藤委員 こども発達相談センター「すまいる」との連携について、「すまいる」に通っていた子供の保護者は、小学校に入ってから「すまいる」で支援を受けたいという声を聞いているが、対応はどうなっているか。

富山指導主事 小学校入学後も「すまいる」に関わってほしいと望む保護者がいることは承知しているが、「すまいる」で受け入れられる人数にも限りがあるため、小学校入学後は電話相談のみの対応となっている。教育委員会としても「すまいる」から小学校へのスムーズな移行を目指している。

最近では幼保小連携に力を入れており、行事などがある場合は、小学校と「すまいる」、幼児教育施設が連絡を取り合っており、互いの行事の様子を見たり、小学校の先生が支援が必要と思われる子の状況確認を行うなど、情報交換をしている。

古川委員 特別支援学校と普通学校を比べると、生徒に対しての支援は特別支援学校のほうが手厚いと思うが、特別支援学校を勧めても保護者の希望でそれを拒否することはできるのか。また、普通学校を希望した場合、受け入れは可能なのか。

富山指導主事 特別支援学校のほうが子供にとって手厚い支援があることは説明しているが、最終的には保護者の希望が優先される。受け入れる学校では支援員をやりくりして何とか対応している状況です。

古川委員 学校からは悲鳴が上がっている。体制が整っていない中での受け入れであり、とても対応できているとは思えない。最重要事項として要望すべきではないか。

学校教育課長補佐 学校からも配置人員の増を要望されており、状況は理解しているが、一方で学校の環境整備の予算も必要であり、特別支援に一点集中で予算を投入することが難しい。今後も重要事項と認識して取り組んでいきたい。

古川委員 予算の枠があり、執行部ではどうしようもない部分がある。事業を精査し、市として教育予算をきちんと取るべきだと思う。

寺門委員 支援が必要な子供を受け入れる側への支援体制はどうなっているか。

富山指導主事 校長が職員の中からコーディネーターを指名し、その人が中心となって対応をしている。特別支援学級の担任と支援員とのミーティングを週1回以上行ったり、学級名簿の一番上に支援が必要な子供の名前を載せて、教員全員が対応できるよう工夫したり、校長のリーダーシップのもと、学校全体で取り組んでいる。

寺門委員 コーディネーターに対応が集中すると大変だと思う。負担軽減策はないか。

富山指導主事 特別支援教育についての研修会（年3回）に参加することで、個々の生徒に対する支援の方法などについて、先生たちの理解を深めている。

寺門委員 支援が必要な子が通常の学級で授業を受けたり、給食を食べたり、通常の学級の子たちと一緒に過ごす時間があると思うが、支援が必要な子への対応について、子供たちに

はどのように話しているか。

富山指導主事 今はユニバーサル教育ということが言われていて、支援の要・不要にかかわらず、分かりやすい教室づくりが求められている。例えば、支援が必要な子にとって、目の前に情報がありすぎると混乱することがよくあるので、教室の正面にはあまり情報を掲示せず、教室の側面に必要な情報を掲示したり、やることの順番を分かりやすく掲示したりしている。

通常の学級でも、支援が必要な子を特別扱いすることはなく、給食当番なども同じように行っており、周りもそれを自然に受け入れている。

遠藤委員 無資格の先生より、専門性のある人材が現場では必要なのではないかと。先生方は通常の学級運営だけでも大変な状況なので、支援が必要な子に関わる人は別に確保したいというのが本音だと思う。専門の人を学校に配置できる仕組みはないか。

富山指導主事 そういうシステムが確立していないのが現状です。県の特別支援専門家派遣事業で、専門的な助言等が必要な事案について専門家を派遣する取り組みはあるが、予算の関係でとても全校に対応できるものではありません。

中崎委員 今までは普通教育と特別支援教育のすみ分けができていたが、最近は何かがあっても普通学校に入れたいと思う保護者がふえてきている。地元の学校と一緒に学ばせたいという気持ちはわかるが、特別支援教育の資格を持った先生は、特別支援学校にいますので、保護者にも理解を求めべきだと思う。それが本人のためにもなることだと思う。

(質疑終了)

学校教育課長補佐 建設中の那珂市立幼稚園の名称決定について報告します。園名募集には148名の方から80種類の応募があり、7月23日に名称選定委員会で検討した結果、名称を那珂市立ひまわり幼稚園に決定しました。

名称として「ひまわり」と応募した35名の中から、最年少の4歳児4名と最年長の75歳の方、計5名を幼稚園の開園式で表彰する予定です。9月定例会の行政概要報告にて、全議員に改めて報告します。

委員長 この名称はもう公表してよいのか。

学校教育課長補佐 正式に決定し、本日部長会議でも報告するほか、市のホームページ等にも掲載するので、公表してかまいません。

休憩（午前11時22分）

再開（午前11時31分）

古川委員 新幼稚園建設について、幼稚園舎の西側にゴミ集積所を設置することだが、普通に家庭のゴミを出す集積所と考えてよいのか。ほかの人が粗大ゴミを捨てていたりすることはないか。

建築課長 幼稚園建設工事に伴い、今まで地区の人がゴミを置いていた場所に置けなくなってしまうので、要望を受けて同様の場所にゴミステーションを設置するものです。

遠藤委員 駐車場に入り口は1箇所だけなのか。メインの入り口は郵便局側の道路に設置する
と考えていたが、逆側になっている。送迎時の混雑を考えると入り口は2箇所あるべきだ
と思うがどう考えているか。もう一点、保育室から見た園庭の縦幅が菅谷幼稚園と比べ
ると狭く感じるが、トラックなども十分取れるのか。

建築課長 駐車場の出入り口として、東側と西側の両方を設けている。郵便局側の道路は、県
道に出るのに信号がないため出にくいと考え、コンビニ側の道路を主要なアプローチとし
て、西側をメインの出入口としている。出入口の管理は幼稚園に任せることになるが、送
迎などで車の出入りが集中する時間を見極めて解放し、それ以外の時間帯は防犯の観点か
ら閉じる予定としている。

園庭については、菅谷幼稚園の2倍の広さを確保しており、園舎の配置上、横長の園庭
になっているため、縦幅は狭く見えるが、遊具を配置しても十分トラックを取れる大き
さとなっている。

副委員長 防犯カメラの設置は検討しているか。

建築課長 外部に5台を設置する予定です。また、職員室から見えにくい場所があるため、園
舎内にも死角となる部分を撮影できるような場所に設置します。

休憩（午前11時42分）

再開（午前11時42分）

委員長 今後の調査研究の進め方について、10月に特別支援学校の視察を計画しました。10月
2日に茨城大学附属特別支援学校、10月5日に常陸太田特別支援学校を視察します。ほか
に調査したい事項はありますか。

遠藤委員 特別支援学校を見るのであれば、市内学校の特別支援学級も見てみたい。

委員長 特別支援学級の視察も検討します。

以上で教育厚生常任委員会を閉会といたします。

閉会（午前11時46分）

平成30年8月28日

那珂市議会 教育厚生常任委員会委員長 筒井 かよ子